

第8回遊佐町立学校適正整備審議会 会議録

会議日時 平成30年12月20日（火曜日） 19時00分 ～ 20時45分

会議場所 遊佐町役場 議事所

出席者 伊藤 順一（遊佐町小中学校長会会長）
松本 三也（遊佐町小中学校長会）
太田 くみ（蕨岡まちづくり協会）
佐藤 憲三（遊佐地域づくり協議会）
伊藤 悦子（西遊佐地区まちづくりの会）
小田原 裕（高瀬まちづくりの会）
佐藤 浩毅（吹浦地区まちづくり協議会）
今野 博義（蕨岡小学校PTA会長）
高橋 智（藤崎小学校PTA会長）
阿部 勝志（高瀬小学校PTA会長）
高橋 太一（吹浦小学校PTA副会長）
那須 正幸（遊佐中学校PTA会長）
池田与四也（遊佐町総務課長）
伊藤 新一（遊佐中学校教育後援会会長）
伊藤 淳子（杉の子幼稚園園長）
佐藤 美紀（前遊佐中学校PTA副会長）

欠席者 眞嶋 一（稲川まちづくり協会）
川俣 善幸（遊佐小学校PTA会長）

傍聴人 山形新聞社 1名 他 9名

協議事項 （1）第7回遊佐町立学校適正整備審議会会議録の承認
（2）資料説明
（3）意見交換
①中間答申 各地区説明会での意見等について
②最終答申について

※以下、赤字の部分については個人情報取扱いの観点より公開は控えさせていただきます。

協議内容の概要

教育課長 皆さまこんばんは。ご苦労さまです。予定の時間より若干早いのですが、本日は18名中2名の方から欠席のご連絡をいただいております。16名全員揃いましたので、ただいまから第8回適正整備審議会を始めさせていただきます。初めに伊藤会長よりごあいさつをいただきます。

伊藤会長 改めまして皆さんこんばんは。師走の慌ただしい大変お忙しい中、第8回遊佐町立適正整備審議会にご出席をいただきましてありがとうございます。時節柄インフルエンザが流行し始めているようでございます。新庄では閉校した学校があるという報道もございました。お互いに注意してこれから風邪などひか

ないように皆さんで注意していきたいと思います。さて、前回の審議会で中間答申を提出させていただきました。その中間答申の内容を教育委員会から各地区別に説明会を開催させていただいたところでございます。その中で発言ありました内容等につきましては、委員の皆さんにはお届けしておりましたのでご確認いただいていることと存じます。本日の審議会につきましては、その状況の報告をいただいて、皆さんに慎重審議をいただきたく存じ上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

教育課長 ありがとうございます。それでは、次第、3経過報告に入らせていただきます。事務局から報告をさせていただきます。11月13日に行なわれました第7回の審議会ではありますが、冒頭、10月2日に開催されました第6回審議会の経過を報告し承認を得ました後に資料の説明を行なったところであります。資料については10月に実施した保護者アンケートの集計結果を提示しまして概要についてご説明をいたしました。そして、10月に示した中間答申（案）にご指摘をいただいた部分の訂正や追加部分などの説明を行ないまして、委員の皆さまから中間答申について了承を得たところであります。その後、会長から教育長に中間答申書を提出していただきました。提出しました後には中間答申に係る各地区説明会の日程等について説明した後、説明会においてはいただいたご意見を次回の審議会に提示をしまして、最終答申に向けて検討していただくことにしたといたところでございます。なお第7回の会議録につきましては皆さまのお手元に事前に配布しておりましたので、協議の中で、承認いただければと思っております。経過報告については以上であります。

それでは、協議に入らせていただきますが、座長は会長をお願いいたします。

伊藤会長 それでは次第、4協議に入らせていただきます。（1）第7回遊佐町立学校適正整備審議会会議録の承認の件でございます。会議録をご承認いただける方挙手をお願いいたします。

（全員挙手）

ありがとうございます。全員挙手、承認させていただきます。

続きまして、（2）資料説明、事務局お願いします。

教育課長 はい。大変失礼をいたしました。今回の会議録の署名委員について、申し忘れました。順番からいきまして今回は14番那須委員と17番伊藤（淳）委員をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは説明させていただきます。最初に皆さんにお配りしておりました中間答申の説明会の報告書でございますでしょうか。事前に送付させていただきましたので確認されている委員の皆さんもおられるかと思いますが、簡単に説明させていただきます。冒頭に参加者が記載されております。11月27日の保護者対象として議場で行ないました説明会、その時が1番多かったという状況で60名ほど参加いただきました。この中で保護者ではない方が1割程度いらっしゃったと思いますが、高瀬、蕨岡、吹浦地区に比べまして稲川、西遊佐、遊佐地区の皆さんについては参加者が若干少ない状況でございまして、当然藤崎小という経験をされている稲川、西遊佐と1小学校にする場合の遊佐地区につきましては、受け入れる側ということで参加者が少なかったかと推察されると

ころであります。参加者には事前に2023年度の統合時期を示した段階での参加でありましたので、その統合時期に反対の皆さんからほとんどご意見をいただいたと思っております。そのためここに記載されていますご意見には中間答申で示した時期をもう少し伸ばしてほしい。遊佐小の教室に収まる頃にならないかというご意見を多くいただいたと思っております。その中にもアンケート結果にもありましたが、2023年度統合に賛成の方も多くいらっしゃるのも事実でありまして、今回の説明会の中では、反対の皆さまの意見が多かったと感じております。また教育委員会としても小学校を1つにしてみなくても、子どもたちの教育環境についてはこれまでと変わらないように整備をしなければなりませんので、PTAの一部の皆さん方からは、将来の教育環境の変化が1番心配というお話を聞いておりましたので、その辺は安心していただければと思っております。将来的に1クラスの人数が24～27名という形のクラス編成になろうかと思えますけど、現状よりは増加するわけですが、他の状況が現在と変わらないというところで教育委員会としては詰めていくことになりますのでご了承願いたいと思います。それから多くいただいた意見としては「複式学級は設置しない」という平成23年の答申や平成24年の教育委員会の基本方針がございませうけれども、「複式学級は悪いもの」という説明に聞こえているようで、こちらとしては「複式学級はだめ」という説明はしていなかったわけですが、そのような捉え方をされている方が大変多かったのではないかと思っております。なお、ご意見ご質問多数載っておりますが、実際は1人の方が何度も意見をされておりますので、番号の数だけ質問した人がいるわけではございませう。重複されている方も少なからずいらっしゃいます。例としては、最後の遊佐地区の説明会、ご質問の関係については1人の保護者の女性の方から寄せられた質問でございました。なおこの方、たしか高瀬地区の方だったかと思っております。以上、様々なご意見ご質問をいただきましたが、報告書にそれぞれ載っておりますのでご覧なつたとおりであります。それから資料として次第、P2に12月1日現在の児童数の推移、変更がありましたので変更しております。複式学級のところはカラーになっておりますが、変更になったところは2024年度の藤崎小学校の1年生22名、以前提示した資料では21名となっておりますが、1名増になります。添付した資料については以上です。

教育長 私から2点、課長の説明に尽きるのですが補足させていただきます。1点目は、今後の裏付けとして中間答申が出たわけですので、これを踏まえたアンケート、特に若い世代、小学校のPTAまで含めて取ったらどうかというご意見も資料の中にあつたと思ひますけれども、確かに前回のアンケートでは判断する材料がなかつたものですから「どちらとも言えない」という方が30数%あつたわけですね。今回は具体的に年度やそれに対する色んな条件も出たわけですので、そういうものもお読みいただいて再度アンケートを取ったらどうでしょうかという声もありました。もし審議会の中でぜひということであれば、教育委員会としては1月上旬から中旬くらいまで対応したいと思っております。これもお話し合いいただければと思っております。2つめ、色んなご意見ございませうけれども、やはり教室の増設というのが1つの課題になっているのかなと、やはりその時期をもう少し待ったらどうかという声も少なからずあつたと

考えております。蕨岡小学校そして高瀬小学校、いずれかの時点で複式学級になるわけですが、決して「複式学級がだめ」と言っているわけではございません。その辺が意見としては議論のところであったかと感じたところでありました。

伊藤会長 ありがとうございます。この資料の説明、教育長の補足も含めて、何か意見等ございますでしょうか。

無いようですので、進めさせていただきます。（３）意見交換①中間答申 各地区説明会での意見等について、こちら進めていいですか。先ほどあいさつの中でも申し上げましたけれども、内容等につきましては事前に郵送という形で委員の皆さまには配布させていただいているところでございます。その意見等を委員の皆さん各自見られて読まれたことと思いますが、この件に関して、何かご意見、要望等ございましたら挙手の上お願いいたします。どなたかいらっしゃいませんか。説明会にも複数の場所に行っている委員の方もいらっしゃるようでございます。

今野委員 私自身は保護者の皆さまがどのように考えているのかを聞きたかったものですから、保育園保護者の説明会、それから蕨岡地区、時間が許す限りで遊佐地区、３カ所説明会参加いたしました。ただ先ほど事務局の方から反対の方だけが集まったとお話があったわけですが、私は一切そういうことは考えておりませんで、純粹に説明会でどのような意見が出されたのか、参加し聞かせていただきました。私自身が受けた感じとしましては、町内１つの学校になることに関しては、おそらく想定以上に保護者、地域の方は理解していただいていると感じています。ただ今回３５年度という年度が出てきたことによりまして、その３５年度で設備が整っていない、そういった理由も挙げられるわけですが、３５年では早いのではないかという意見が大半だったと私自身は受け止めました。色々な説明会の中であつたご意見としましては、先ほど教育長からお話ありました、これから先統合した場合どういう風になるのかという青写真が提示されないままに３５年統合についてどう思うか、という流れでのアンケートになってしまったということに対してのご意見が非常に多かったと感じます。それで先ほど提案があったわけですが、やはり現在中間答申がでて、皆さんにどういう状況なるということが幅広く知れ渡った状態の中で、もう１度アンケートは取るべきではないかと私自身は感じています。最後にアンケート結果を見たうえで最終的にはこの審議会で判断することになるわけですが、やはり説明会の中で１番大事だと思ったのは、保護者、地域の方との合意がなされた上での統合でなければ、審議会で決定したからと一方的な統合を進める形では今後問題が起こるのではないかと思います。現段階では私自身は３５年の統合につきましては、時期尚早であると考えております。

伊藤会長 ありがとうございます。その他ございませんでしょうか。

阿部委員 高瀬の阿部です。私も説明会でどんな意見が出るか、ここで行なわれた保護者向けの説明会と地元高瀬と吹浦、西遊佐、回らせていただきました。報告書に人数等記載されておりますけれども、地区によっては活発にご意見が出されたところとそうでないところ色々。私も同じように保護者から出た意見として多かったのは、３５年という部分が出たことによって、建物を増設しなければいけない。それに伴って人数が入る年度まで伸ばした方がいいのではないかと

いうニュアンスの保護者の皆さんの心配されているお声が多かったように感じました。そこで、35年、事務局では説明しているつもりではいるかと思いますが、その35年度という部分が出た理由付けと丁寧な説明がもっと必要なのではないかと思います。もう1つは、この審議会では、最終答申として形はどうであれ出るわけですが、最終的にこういったプロセスで、答申の内容と同じ形で最終決定がされていくのか、そのプロセスが一般町民、私たちも含めて、分からないその部分に皆さん不安を感じているのではないかと。説明会の質問の中でも準備が間に合わなかったらそれは延びる可能性もありますという声もあったと思いますけれども、そういった部分では、そのもの、プロセスの説明も必要ではないかと思いました。あと今野委員が言っている通り、それらを踏まえた、一応説明会を通して皆さん色々な部分で関心を持ち始めた方もいらっしゃるかと思いますので、アンケートを再度取る必要があるのではないかと感じましたので、そこは皆さん協議していただきながらその部分をどうするか、内容も含めて協議していただければと思います。

伊藤会長
那須委員

ありがとうございました。

遊佐中学校の那須と申します。私も議事所と高瀬、吹浦の説明会に参加させていただきました。今、今野さんと阿部さんが言った通り、やはり時期尚早という意見が多数あった中でも、やはりアンケート内容についての質問もかなり多かったように思いました。中間答申が出ていない時点でのアンケートということで「どちらとも言えない」という意見の方がとても多かった中では、やはり説明がないままでアンケートを取ったところの質問も多かったと思われる。今回35年、審議会の諮問に関しては、だいたい年度数をいかほどの年度にした方がいいのか、諮問をいただいていたので、ある程度たたき台として35年度という形で皆さんに中間答申を出させていただきました。それによってたくさんのこれだけの意見をいただいたというところでありましたので、またこれを踏まえまして、先ほど教育長が言っておりましたけれども、再度アンケートを、内容を少し吟味しまして幅広く取っていただけたらいいかと思っております。未就学児の子どもたち、小学校1年生から6年生できれば中学校1年生まで、中学校1年生になりますと各地区から集まって来た子どもたちが大きな学校の中に入ってますので、もしそちらの保護者の方々にも意見を聞いていただければどんな暮らしか分かりますと思います。ぜひ再度アンケートを取っていただいて、先ほど阿部さんも言いましたけれども、そのアンケートの内容をまた最終答申に向けて審議会の中で意見交換をしたらいいのではないかと私は思いました。

伊藤会長
高橋（太）
委員

ありがとうございました。

細かい内容は今3名の方が言った通り。私は具体的な内容までは案がなかったのですが、アンケートは取ってほしいと思っておりました。それとアンケートの結果、地区ごとのパーセンテージを出せないかと思っておりました。よろしくをお願いします。

伊藤会長
高橋（太）
委員

ありがとうございます。これは6地区ごとということでしょうか。

小学校区、稲川と西遊佐を分けた方がいいのか、合併しているから分けなくていいのか。5地区。

伊藤会長

ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

小田原委員 高瀬の小田原です。35年で6年生になる子のお母さんからとっても不安が大きいというお話を伺いました。やっぱり自分の子が6年生の時に統合すると「うちの子、がちやもちやした中に入って6年生としてやっていけるのか」ととても不安だし、それが反対に学校に対する不信感が募ってきてどうしたらいいか分からない」というのがお母さん方の正直な気持ちなんだという感じになりました。でも反対に言うのと私に訴える人もいた。説明会の時にちゃんと話す人もいるということはそれだけ浸透してきた。話が皆さんに伝わってきたということではないかと思うので良いことだと思います。ただアンケートを何も出さずにやったものだから、賛成しますの賛成の中にはいつするのか分からず、いずれは統合するのだから仕方ないだろうと賛成と書いた方もいらっしゃるわけですから、その中身がよく分からず、今たたき台で色々なことが出てきたわけですから、もう1度アンケートを取るのであれば、話として随分浸透してきて分かってきたので思うのでこれから先取った方がいいのではないかと私も思います。

伊藤会長 ありがとうございます。

伊藤（淳）委員 伊藤です。私はこの説明会は本当にスタートだと思いました。皆さんから声を出していただいて、生の声ですので「こんなふうに思っている。こんな不安、こんな疑問がある」ということで、これは本当にスタートで今、小田原先生も言われましたけれども、先ほど教育長からも今度はアンケートの内容を吟味して、もしかしたら今出たご意見それから色々な声が出たものをある程度聞きましたので、それを付帯事項として「このように解消できます」とか「このように考えて進めています」とかある程度示した方が、示してからアンケート、それを同時にできるようなアンケートであれば保護者も「私はこういう意見を言ったけれどもどうなのか」に対して新しいアンケートではなくて、これだけたくさんの声が届きましたので「審議会としてはこのように考えて進めていくつもりです」といったアンケートだったら、保護者も納得したり見えてくるのではないかと思います。

伊藤会長 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。地区代表の方にも送っておりますのでよろしくお願いいたします。

太田委員 蕨岡の太田です。前回の遊佐小と蕨岡小の統合かという時に地区の座談会がありまして、その時に参加した時はものすごく人数が多くてすごい関心の高さがうかがわれました。（説明会）蕨岡の自分の地区しか参加してませんが、その時の参加人数の少なさに少しがっかりまでいかなくても、このくらいの認識なんだと、今までのお話の方と少し見方が違うと思っていますけれども、私は多少がっかりしました。資料が送られて来て他の地区の会場の参加人数も見まして意見を見たところ、それもやっぱり私の感じとしてはまだまだこれは統合についての意識がないのではないかと変わってきております。審議委員としてこのような形で参加していることへの自分の甘さみたいなものを感じましたし、地域の方たちの理解も不足それから父兄の方の積極性がないと思いました。もっともっと反対の声を聞く以上に賛成の意見がなんで出てこないのか、このような状態の中ではうまく統合は、このままいけば厳しいかなという感じにさえなったような気がいたしました。ですから反対、心配という声を上げてくださる方はもちろんいいのですが、それ以外に静観しているような感じの保

護者、それから皆さんこの中でも小さい時代の子供を抱えている父兄、何回も話題になってはいますが、実際に参加者は少ない、ほとんどなかった。でもよく考えてみれば全戸配布でこの案内を出されているにもかかわらずこの参加の少なさはなんだろうと私は大きな疑問を持ったところです。それも含めて話し合いを進めるべきと痛感してところです。

伊藤会長 ありがとうございます。その他いらっしゃいませんか。

佐藤（憲）委員 遊佐の佐藤と申します。私はこのアンケートの中身が分からないままとかいうご意見が出ていますが、このアンケートを取らなかったら議場での60人前後の大勢の皆さんの話し合いの場、それから6地区での座談会には発展しなかった。当然正確な審議会途中のアンケートですから、アンケートを取られる保護者の皆さんにはとっては「なんだや」ということになるかもしれませんが、間違いなくこのアンケートは中途半端であってもこれだけの意見の吸い上げをできたということでは私はこれは当然だと思っています。2つめ、皆さんはすぐ次のアンケートうんぬんと進んでいるようですが、1番先にやることは6つの会場と議場で出た質問に対してきちんと答える。それを審議会ではこういう形で進めました。あるいは統合時期のうんぬんについては、前回の23年、24年を元にして進めてきました。この大きく、確か私も議場と稲川そして遊佐に参加しましたが、こちらのアンケートの今度は左側に主な質問の要点、そして右側にこれまでの審議会での進捗の回答、あるいは23、24年の流れ、あるいは27、28年のPTAの代表の皆さんが2年かけて話し合われたときの日程の共通認識、そういったものをどの方法がいいか分かりませんが、もう1度答えるというペーパーが先だと思います。その中から次のアンケートをどうするのかと発展するものだと私は思っています。まず今回のアンケートはやって色んな意見の集約をすることができたことは評価をし、これをきちんと何らかの形で参加した人あるいは都合で来れなかった人に見える形で質問に答えるこれが先だと思っています。

伊藤会長 ありがとうございます。

伊藤（悦）委員 ここで参加者の1番少なかった西遊佐地区です。それでその13名のうち4名でした保護者の方が参加したのは。教育委員会で中間答申の説明をしてくださったのですが、それに対しても賛成、反対の意見も1言も出なかった。親たち何を考えているのだろうと私も不思議がったのですが、それは致し方なかった。それで審議会での今までの意見等いれて再度アンケートをお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

伊藤会長 ありがとうございます。

佐藤（浩）委員 指名されましたので、1言だけ。昔の話ですが私の経験上、現場にいたころ、今酒田市になりましたが、昔の松山それから平田町、小さい町教育委員会に勤務したことがありました。その時点で今の問題、統廃合の問題が松山でも出ましたし、平田でも大きく出まして悲惨な結果を招いて終わったというのが田舎町の現状であります。その場におりまして、最初からこの会に参加してまいりました。今さら何か言うわけではないけれども、例えばアンケートについても私はしつこくその内容が、町民から誤解を受ける内容であるということをごいほど言ってきたはずで。終わったことですから仕方がありませんが、ただ今までのお話ですとどうしてもおかしくなってきたような感じをする。審議会

の進行をちょっと心配しておりました。中間報告というのは、どれくらいの力量があってこれを覆すことができるのでしょうか。この中で。これは1つ質問したい。私も現場で参加して感じたわけですが、参加した人たちに教育委員会の方でぱっと提案してそして聞く耳が短時間で本当に教育委員会あるいは審議会の意思が参加した人たちに通じるのかどうかという疑問があったわけです。そんな30、40分で通じるわけない。来た人はなんか不満気に終わってしまっている感じがする。理解不足もあるでしょうし説明不足もあるかもしれません。今さらこれをどう持っていくのか、私も迷っている。平田町のような形にはなってもらいたくない。というのが本音でございます。

伊藤会長 ありがとうございます。

佐藤（美）委員 私、地区は遊佐地区なのですが実家が西遊佐地区でしたので、西遊佐地区の説明会に参加させていただきました。実家の父から聞いたときに近所の方が稲川地区の説明会は何人くらいだったという話で、地域の方々も稲川地区がこのくらいの人数だったから行っても行かなくてもいいと、もし思われているのでしたらちょっと残念と思いつつ参加したら人数少なさにちょっと残念な思いをした。地域の方々も関心を持たれている方結構多いのかなと説明会の資料などを見て思ったのですが、保護者の方々にもそうですけれども、地域の方々にも分かりやすく説明をしていった方がいいと思いました。

伊藤会長 ありがとうございます。私も西遊佐地区ですから西遊佐地区の説明会に参加させていただきました。これは個人的な感想でございます。やはり人数が少なかったです。先ほど伊藤（悦）委員が言ったように保護者の皆さん4名ほど出ておりましたが、ご質問は一切ございませんでした。ただ西遊佐小学校、稲川小学校が統合するにあたっての流れでございますが、前も言ったことがございます。やはり少人数での多様な教育活動は中々展開しにくい。西遊佐地区、西遊佐小学校としての流れになってきたわけです。そういったことで地域の皆さまはやはり地域から学校が無くなることに非常に抵抗がある、本当「すぐ統合しますか。はい。OK。」にはならず、非常に揉めました。地区住民が反対なさった形跡がございます。そういった流れの中で、やはりこの子どもたちをより良い環境、教育環境の下で、その場所で勉強をさせてあげたい。遊ばせてあげたい。そのようなところを教育委員会ははじめ、地域住民の方々に懇切丁寧にご説明をした。その上で、これはやむないという流れの中で統合に至ったと聞いておりますし、感じておるところでございます。そしてまた稲川小学校と統合しました。統合した後どうなったのかが1番大事なことであってやはり子ども方の目の輝きが違って来た、やはり多い人数の中で切磋琢磨しながら競争心も色んなスポーツにしても多様な動きができる。こういうような統合によりメリットが出ている状況に至っているわけでございます。そうなった環境であれば当然保護者の皆さんも安心感が生まれてきますので、藤崎小学校のPTAの会長もいますけれども、伊藤（悦）さん方も今は安堵しているのではないかと思います。まだ統合しないで西遊佐小学校があのまま継続していたらどうなっていたのか。ふと思えますと統合してよかったということの方がすごく気持ちがゆっくりしますし、子どもたちも元気で遊んでるし、勉強していると私は非常に感動的に最近思っております。その他ございませんでしょうか。

佐藤（浩） 委員 これからの話し合う中で先ほど言ったように中間答申が覆されなくて、審議会でそのまま持っていこうと、それを基本に置くのか、ちゃんとして決めていくのか、あるいは中間答申が出されてしましてもご父兄の皆さん、参加者の皆さんが待てという意見が多いということです、それを覆しながらまた持っていこうとしているのか、その基本点をしっかりおさえないとちょっとおかしくなっていくのではないかと。

伊藤会長 確認したのは個人的な考え方でございますので、会長としての意見とは別でございます。中立に対応していきたいと思います。

ただ、この中間答申を覆せるのか、という件につきましては、やはり審議会の上で十分議論した上で最終答申という目指すものがあるわけでございますので、修正は可能と私は思っております。

佐藤（浩） 委員 分かりました。それであれば、それなりに考え方が違ってくると私個人は思っております。

教育長 私は、意見ではなく感想ですが述べてよろしいでしょうか。

色んなご意見をいただきまして、今、佐藤（浩）委員から中間答申をどう解釈するかということでございましたが、私は大きな意味があったと思います。前段取りました。これまで具体的な内容のたたき台、たたき台という言葉がふさわしいか別ですが、無かったものですから議論が先に進まないところで出ましたので、色んなご意見が出たということで関心、参加者が少ないので関心が少ないのでがっかりという回答。色々出たものですからいよいよ皆さんからステージに登っていただく機会になったのではないかと受け止め方をされた方もありました。両方当然だと思います。特に遊佐小学校にまとめるという方針は今までなかったもので、今まで一切異論なかったです。そこは共通理解いただいた、大きな前進だと思いますし、ただ中間答申を出したところで色んなご意見をいただいたわけですので、そこを踏まえて合意形成、大きな1つの積み方のポイント、もちろん合意形成の1番は審議会の皆さんの意見でございますけれども、説明会に回りまして、また色々な立場でご意見をいただきまして、私の感触ですけれども、将来的にやっぱり1小学校にならない方がいいという考えよりはやっぱり1小学校、アンケートにも出てますがそういう方向性を感じ取れたと思いますので、決して中間答申に大きなインパクトがあったのではないかと思っております。私の感想です。

伊藤会長 その他、ご意見等ございますでしょうか。

今野委員 中間答申の内容についての質疑ご意見ということで各地区からいただいているのですが、その説明会の中で、審議会に伝えますと終わったものと、その場で回答が出てしまったものがあった。例えば、先ほど阿部委員がお話した。ここ議場で行なわれた説明会の中で、準備期間中に付帯事項等の問題が解決しない場合、統合時期が延びることがあると理解してよろしいのでしょうかという質問をいただいたわけですが、その質問に対してはその場で延びることがあると思いますとお話があったように、やはり審議会の中での共通認識、先ほど佐藤（浩）委員がお話ししましたが、そういうところをきちんと整理して上で進まなければいけないと確かに感じました。あと、色々な説明会に出ている中で、例えば、先ほどからより良い教育という言葉が出てきている。現在の保護者が考えているより良い教育とちょっとずれがあると感じたところで

した。例えば、移住される方、こちらに来られた方、ちょうどこの場所での説明会、まだお子さんが学校に入っていない保護者だったが、都会からこういった地区の学校の環境が良いと思って移住したと、それがなぜ都会並の大きな学校に進んでいるのかというご意見もあった。そこは我々が1番最初にゆくゆくは1つと、人数が少なくなりすぎるのはあまり環境がよろしくないと進んでいるわけですので、そのの少なくなるというところが複式なのか、小規模校なのか、そののの混同があって、説明会の中でも複式はなぜだめなのかという意見になってきたように感じました。ですので、一旦中間答申書についての質疑ご意見、ここを整理して審議会としてどう考えるのかをまとめたうえで先に進まないといけないと感じたところです。

伊藤会長 ありがとうございます。各委員から再アンケートというご提案を数多くいただきました。このアンケートにつきまして各委員の皆さまはどのような判断で取った方がいいと思われる方挙手をお願いしたいのですが、どうでしょうか。再アンケートを取るべきだと、色々ご提案あるわけですのでその中身の方はまた後ほど。

ありがとうございます。9名ほど再アンケートということで挙手いただきましたが、この件に関しまして、事務局どうですか。

教育長 まだ結論は出ないようではございますけれども、皆さんがぜひということであれば、やぶさかではないと冒頭申し上げておりましたので、要は中間答申の中身が出たわけですので、あの中にこれまでの経緯、理由も記載されてありますのでこれも付けて、こういう経緯でこういう形で中間答申は出ました。あの中身をお読みいただければここまで来た経緯は分かるわけですので、ご理解いただいた上で、中間答申、皆さんの審議会では35年、これはもちろん1小学校にすべしと複式学級は解消すべしという両方のことを勘案して35年ということで中間答申を出したわけですので、そこを是か非か聞いて、もし他の考えがあればその考えでどのような将来的なビジョンをお持ちなのか、また色々あると思いますが、我々は35年で中間答申を出していますのでそれを大前提にご意見をいただく。それはやぶさかでないと思います。それを踏まえて最終的にまとめていただく可能性はあると思います。出せる資料は中間答申として皆さんにまとめていただいた資料を出すのが、スタートラインになると思います。もし付け加えることができるとすれば、決まるまでのプロセスが分からないという声がありましたので、審議会で最終答申を出して、そして然るべき期間を見計らって準備委員会を立ち上げて、もちろんその前に教育委員会の方針を決定する。それをスタートラインとして準備委員会を立ち上げて準備が整い次第、次のステップに行く、こういう流れは答申の中には具体的に出ていませんので、この辺を少し※で補足はできると思いますので、もしアンケートを取るのであれば、中間答申の中身をご理解いただいて、35年にぜひ、中にはもっと早くすべきという方も実際いらっしゃいます。まず35年に私たちは1小にしたいと出しましたがけれども、それにその通りですというご意見の方もあってほしい、私はこうですというその他のご意見もあるわけですがけれども、それをお聞きするのは私はありと思っています。もちろん皆さんで議論していただいて、もしアンケートを取るとすればそういう流れになるかなと思います。

佐藤（憲） 私はアンケートはいずれは取らなければなりません。ただ取るのがこの次に

委員 沿うアンケートを取るタイミングを先ほど問題提起をしました。いずれは取らなければならない。あれだけ意見が出ているから。でも私はこの間の数多くの保護者からの質問疑問、それにまずお答えをする。それから来られない人いっぱいいました。それは個々に来てもらいたい思いはありますが、来られない人を連れてくるわけにはいかない。それは広報で全戸配布して、今回の中身はこういう形の質問が出ました。しかし審議会及び今までの経過では、こういう形の前提があって提供したものです。そこから関心がある人の意見をもらうような形にして、それを受けて第9回目の審議会の中でそれを、中間答申を私は重いものだと思っていますので、当然数多くの質問意見があれば、軌道修正は当然あり得るわけです。この次に生かすということで私はそういう形で繋げるべき。まずこれを答える。そうすると「分からない」という意見の方々が、どっちに動くか、これは少し明確になると思います。それから今野委員が先ほど冒頭で議場で発言された準備委員会でもとまらなかったらという発言をされました。発言した人が傍聴に来ているようですが、それは準備委員会でもとまなければならないのは当たり前。でもそれをみんなまとめようとする努力。そういうことも私は傍聴で聞いていました。まとまらなければ当然強引にはできないです。ただそこは今野委員と認識が違うと思いました。私はすぐアンケートは反対でまず今回の疑問にきちんと答える。これは全世帯に周知する。我々はそこを受けてきちんと中間答申の部分を基本にして、皆承認しているので、そこから色々ご意見を受け入れてどういう形で答申にまとめていくのか。議論を進めていくべきだと思います。

伊藤会長 ありがとうございます。ただ今の佐藤（憲）委員のお話は地区説明会で出た疑問質問等に明確に答える。その後に再アンケート、この順序でよろしいでしょうか。

佐藤（憲）委員 議場での質問、審議会でこういう反応があった。それでまた中間答申を基本にして、ものによっては軌道修正もあるかもしれない。

伊藤会長 佐藤（憲）委員の各地区、議事所も含めての質問疑問に対するお答えを最初にしなければいけない。そこからでないと次のステップに進めない。というお話でございました。皆さんこのご意見に対して何かございますでしょうか。

伊藤（淳）委員 先ほどもお話しさせていただきましたが、佐藤（憲）委員の言っていることと先ほど私が言ったことは同じで、ただアンケートと並行してはどうかと思います。進めていく上でこの中間答申の内容の質疑ご意見は、先ほど言いましたけれども、1歩踏み出したものとして私たちは捉えて、この審議会の中で、これにはこのように答えられる。このように進めていきます。というものを付けてのアンケートにしたらどうでしょうか。

伊藤会長 ありがとうございます。

那須委員 佐藤（憲）委員と伊藤（淳）委員のアンケートの取り方、その前の説明文という形で、私大賛成ですけれども、やはり吹浦のPTAから出た質問だったのですが、私たち審議委員は資料があって物の先が見えているわけですが、PTAに関しましては全然負担が多くて、学校行事はどうなるのかとか私たちの審議会の中で協議する問題では無いところまでも意見として出てくる場面が多かったです。やはりこれから1年生に入る、例えば35年度の統合という形で進んでいくのであれば、1年生に入る保護者、子どもたちは、6年生の時に母

校が無くなって分かれ目に合うことになりますし、また卒業する保護者に関しましては、自分の子どもたちが該当する場ではないものですから、中々参加人数も少ない。やはり1年生がPTAの不安要素の大きなところではないかと思いました。保育園、未就学児童に関しましては、例えばこれから新しく学校に入る、また新しくPTA組織に入っていく中で、今までやってきたことの変化が余りなくて、新しいところに入っていくものですから、不安的な要素というものはそれほど大きくないと思いますので、先ほど教育長がおっしゃったようにこれとこういう内容は準備委員会を立ち上げて、準備委員会の中で審議を進めていく内容です。という形で私たち審議会の内容とをはっきりと分かるような形で載せていただいてアンケートを取っていただければ、この審議会が始まる時にも言いましたが、不安が大きいです。PTAに関しては不安が大きいで、何が不安なのか、1つ1つ取り上げていただいて不安を無くしていただくことが何よりも理解していただくことと思っておりますので、合わせてよろしくをお願いします。

教育長 説明会でご質問、質疑いただいた内容につきましては、質問、疑問点ですので当然解消しなければならない。これはこういうことだと具体的にお伝えします。ただ参加していた方々しか聞いていないわけですので、そこで説明を聞いて「分かりました」や「そうなんですね」という返事の方もありました。中々ご理解いただけない方もあったのかなと思います。質問の中身も例えば「この学校のこの行事どうなるんですか」というものには、審議会であったように「準備委員会で具体的に学校の先生に核になっていただいて教育課程編成の中で吟味していきます」ということでお答えしたわけですが、1つ1つの行事については質問があっても答えられない。そのことについては、「準備委員会の中で色々な立場の方々が子どもたちに1番よい内容になるように精選していただきます」とそういう書き方にしかないと思います。ですからご質問いただいた中でも同じようなご質問をいただいた方もいますので、お答えできるところと難しいところもあるのですけれども、そういう大きなところで答えるしかない中身もあると思いますのでそこはご理解いただきたいと思います。

伊藤会長 その他ございませんでしょうか。

小田原委員 その回答を書くのでもこのように大変良い具合に分類されているので、見てみると審議会に関すること、小学校の施設に関すること、複式学級に関すること、項目を並べると10項目くらいで収まるようです。これ全部に回答しろというわけではないです。あるいはこんなふうにして欲しいという要望はわかりました程度でそんなに書く必要はないと思います。そういうふうにした回答を1回全戸配布。同じものを付けた上でのアンケート、2回くらいしないと見てないという人が必ずおりますので、それは仕方がないことですが、一生懸命配布してきたのだけれども、それをはじめて「説明会をします」という段階ではじめて「そうだったの」として、アンケートがきたときにはじめて考えた人も多いと思います。ですからこのようにだんだん進んできたわけですから、せっかくここまで分類していただいたわけですから、答えられるものはきちんと答えて、それをお金を無駄使いして大変申し訳ないけれども、そういうふうにしてきたということも大切かと思います。

佐藤（浩） 今、教育長からお話がありましたけれども、例えば吹浦の例を取ると、質問

委員

とご意見が出されたため、事務局としてある程度説明はなされた。そして納得された人あるいは疑問に思いながら帰った人、様々だと思います。これ吹浦だけでなく同じだと思います。一応回答はなされた。これは確認しなければいけない。それからどうして事務局、審議会の意見がスムーズに通じないのか。理解不足あるいは不安だということがなぜ出てくるのかということ、はつきり分かっている。これは事前に会議を開く前に何か手立てはなかったわけです。私は危惧しまして区長会があったときに2回ほど、吹浦では意見交換をしました。ですからこういう形の似通った問題が区長会でも出た。そして私なりに教育長に変わったわけじゃないけれども、審議委員として出来るだけ幅広く区長方にうまく浸透するように努力してきました。2回も電話した。それからそれと同時にまちづくり協議会の役員、その機会もあったので、それにも質疑応答、意見を出されるように努力しました。それで当日40人しか集まってなくて、なぜ区長連中來なかったのかと思ひまして、次の日なぜ來なかったのかと打診しました。そうしたら私から詳しく何回も聞いたので大体理解したという人もいる。何が言いたいのかということ、やっぱり時間をかけて説明をする。時間が少ないと何回やっても不満な人不安な人色んな人が出てきます。だから会議がある毎に別の会議の中でどう審議会の流れが徹底してできるのかということ踏まえていかなければいけないと思ひました。それから今野委員、私と同じような意見を出されまして、まとめてくれたと思うのですが、中間答申という大きな決まりが決定ではないのですが、決まりがどのように変わっていったのか。そのままずっと通していかなければいけないのか。これは審議会として一方ちゃんとおさえておかないと、あるいは地域に帰ったときに「どうなのか」と言われて「中間答申とは別に変わってもいい」と発言をすると町民の皆さんも「なんなんだ」ということになりかねないと思ひます。これ心配事です。

伊藤会長

ありがとうございました。

阿部委員

この説明会の質問に対しての回答を町民に公表する際に、今までこの審議会を開催して中間答申に至るまで、過去どういったプロセスでどこまで遡ればいいのか分かりませんが、23年度に審議会が開催され藤崎小学校が誕生するまでの動き、時系列で簡単な今までの流れを付けていただいて、説明会で色々な資料を提出されたと思うが、当然公表するのは大変だと思うので、そこはホームページで閲覧できるようにするとか簡単な流れ、どういった形で現在の審議会が開催されて、1つの小学校に統合の話に至ったのかを付け加える必要があると考えました。付け加えていただければと思ひます。

伊藤会長

ありがとうございました。

太田委員

私は中間答申の内容というのは、もっと重いものではないかと思ひて自分なりに理解しております。6、7回の審議会を経て答申案がようやく決まったわけです。35（2023）年に統合しようかという案を、何度も何度も色々な意見があった中での結論だった。ある程度この辺までにはというような準備の年数も色々なものを踏まえた中での我々の中での答申案、中間答申だったわけですから、そんなに簡単に覆すとか覆さないとかいう話題は私はちょっと納得がいけない。35（2023）年に100人を超えるのは遊佐小しかない。あとは全部100人を切る人数。それが遊佐町の中で私たちが未来、教育長から未来未来という言葉も出ていますけれども、どんな形で遊佐の子どもたちを

育てていこうかというような形で審議会として話し合ってきたのではないでしょう。都会の規模は1学年1クラス2クラスの段階ではないと思います。大規模校というのは1学年4クラス5クラスあったマンモス校。孫も都会にいますけれどもそこも2クラス3クラスで統合の話が出ていると話題に出たこともありましたけれども、遊佐町の子どもたちとして全体を私たちは見る観点で、この審議会のメンバーの1人として参加してきましたので、そんなに簡単に覆す、覆さないという話題は私は避けたいです。ですからどんな形にすれば保護者の方たち、これから学校に入れるお父さんお母さんがどんなふうになれば不安なく統合、遊佐町の子どもたちの未来を作っていけるような学校が出来るのかという観点で進めるべきではないかと思っています。

伊藤会長 ありがとうございます。その他ございませんでしょうか。

今野委員 今、中間答申のお話がでましたが、私自身は中間答申が軽いものとは考えていないです。ただ現実的にこの審議会を7回やってきた中で決を採ったわけです。その決は100%全員一致ではなかったわけです。それでも皆さんの意見を聞くために35年ということに決めたのであれば、公表して説明会をして多くの皆さんの意見をいただきましょとしたと私自身は考えています。です。で、実際皆さんが説明会に参加されてこれまで7回話し合いをしてきたわけですけれども、その話し合いの中での自分の考え方と説明会が終わった後での自分の考え方に変化がないのであればそのままいくということがあってもいいでしょうけれども、そこも中間答申でそう決めたからそのまま行かなければならないという考え方は私自身は違うと思います。

太田委員 中間答申を必ずそのような形と私は言ったつもりはありません。ですから、もっとその前にみんなが本当に理解して、統合になるあるいは延ばすであればいいと思います。でもこんな10、20%の参加率でこんな大きな問題をひっくり返すとか返さないとか話題にはしたくないと思います。

今野委員 すみません。私は審議委員の皆さんの気持ちをお話ししているわけです。

佐藤（憲）委員 最後まで聞きなさい。委員長を通して、

太田委員 私はそんなふうに考えております。色んな立場の意見それから保護者の意見をもう少し聞かないとだめだと思います。こんな問題点があるということをやまず町民の皆さんに、このような報告をしてからアンケートを取ってほしいと個人的には思っています。

伊藤会長 ありがとうございます。

今野委員 私自身はアンケートですべて決めるというのは考えていませんし、最終決定権はこの審議会ですので、アンケートの結果を踏まえて審議委員の皆さんがどう判断するかということだと考えています。ですのでその判断の中に、その10%とかそういったご意見が先ほどあったわけですが、10%の意見であつても審議委員の皆さんの気持ちが変わったのであれば、変わった形での最終答申はあっても然るべきだと考えています。

伊藤会長 この件に関してございませんでしょうか。

佐藤（浩）委員 私、何回も言いましたけれども、伊藤会長の言っていることが骨、大事。中間答申、みんな審議会で決まった。それを持って説明会をなさったわけ。なぜ今さら決まった中間答申を出す前にもっともっと論じて最終的な答申が

でなかったか。審議会はそんなではない。私はそう思う。一応決まった以上は突っ走れという意味ではありません。主に答申を軸にして、そして色々な意見を聞いてそしてその答申に沿った問題点が色々あったら変えていく、改正しながらもっていく、そうやっていくのが今の段階だと思って発言しています。ただ反省としては時間が足りない。住民と私たち事務局の接し方が時間足りなかった。大きな反省の材料だと思います。今さら答申を覆してまた別にやりましょうというのが分からない。

佐藤（憲） 委員 少なくとも前回までは個々の賛否はあるにしても一応ここで承認されて今回臨んでいるわけです。今回はアンケートという1つの住民との説明会の部分でできたので、だからアンケートを取るかとか色々な手法についてまだ一致はしていないわけですが、まず疑問に思っているところの部分をついたん整理して、当然その後に色々な質問事項が出てきたときにこの審議会第7回までの中間答申を基本にしてやっぱり今までの意見質問がいっぱいできた、それはまさにここで、次回中間答申を受けた中で、こういう質問があるから答えは35年はどうなのか、あるいはもっと解決すべき課題はあると思いますが、ここまでは全会一致まではみんなきているわけですから、合計7回の住民説明会の部分をきちんと整理する。例えば1番疑問が多いのは、なぜ複式学級がだめなのか。それは阿部委員も言ったとおり24年の時のこういうのがあったからというところ、そこは第1回目2月15日の審議会、小学校は1つ複式学級は作らないを共通認識でした審議会、全員の共通認識、そして色々時間と回数を重ねて中間報告。一旦アンケートを取りましょう。アンケートの結果一定の考え方が出ました。当然「わからない」あるいは「現状維持」が出ました。そこを受けて我々が今度どうするか。今回は私方が質問に答えるべき。その答え方も全てに答えるのではなく、1番大きいところが複式の問題、それからなぜ35（2023）年統合で進んだのか。それは当然前回の経過を踏まえて例があって、蕨岡は先に進んだけれども、蕨岡小については現状の教育の質を落とさない。次は高瀬、そこに向けて前回の7回まで進んできた。今回アンケートの意見が出た。そこを踏まえて第8回目に軌道修正する部分もあれば、そこで議論をすればいい。今日までの部分についてはなんら伊藤会長が説明して下さることは全くなくて、要は全員の意見の軸にすることになり変わりなく、だからこのアンケートの取り方をどうするかに集中すればいいのではないですか。

伊藤会長 ありがとうございます。
それでは、中間答申の説明会の報告についてのご意見、色々な観点から出ましたが、これをたたき台として次のステップに進めればと思っておりますので、このアンケート等も含めまして、審議内容も踏まえたアンケートを作成するというのを含めて、今後の適正化に向けた取り組みを進められることをお願いしたいと思いますが、事務局。

教育長 ありがとうございます。これまでの経緯を踏まえて、情報を出してきたけれどもそれほど浸透しない方々が大多数であるということで、主だった疑問に「こういうことです」と答える。それを広報にもぜひ出して知らせたいということでした。こんな内容で事務局では考えて答えを出しますとこれをこの次の会議にお示ししたいと思いますが。それを踏まえて中間答申の中身と広報に出すのはその後になると思いますが、そういったものを踏まえてこういう形で

アンケートを取りたいということを次の会議で確認してもらって、若干時期は後にずれ込むわけですが、その後でのアンケート調査ということで、年度内には出したいということです。最後の方窮屈になるところもあると思いますが、年末から正月にかけて事務局で整理して1月の早い段階で9回目を開いていただいてGOサインをもらえばアンケートに入る。広報に情報を出す。ということで私はご意見を承りましたが。

那須委員 今教育長からありましたけれども、その前に各小学校のPTA会長方をお願いがありまして、やはり小学校の危機ですので、ぜひ小学校の各会長からはPTA総会、臨時総会並びに来れる範囲で結構なので審議会の内容を、やはり1番近くの方が説明するのが1番いいと思っていますので、ぜひそういう機会をアンケートの前にでも設けていただいてPTAの皆さんに周知できる形で幅広くアンケートをお答えしていただく形がありがたいと思っています。

教育長 事務局としてまとめができた段階ということですね。

那須委員 内容的な説明も踏まえて、自分たちPTAの意見も会長だけでなく会員の皆さんからも幅広く意見をいただければと思います。

伊藤会長 ありがとうございます。事務局でございますでしょうか。

教育課長 事務局で準備するものが、今後の日程という形になろうかと思いますが、ただいまの話をまとめますと1月の早い時期に次の会議を開いてアンケートの様式並びに質問事項について回答をお示ししなければいけないということでよろしかったでしょうか。ということであれば1月中旬ごろの開催をお願いしたいと思いますが、今のうちに日程の調整をお願いしたいと思います。その他に入って申し訳ないのですが、次回の日程23、30という日にちを提示させていただきましたが、それ以前の日程をお願いできればと思います。

伊藤会長 1月の中旬ということでよろしゅうございましょうか。委員の皆さんいかがでしょうか。

佐藤（浩）委員 まだ内容が決まっていないアンケートの。対象はどのような形、アンケートする対象。参加者ですか。孫や子どももいない方々来ていた。それから小学校の子どもを持っている父兄も来ていた。ばらばらだった。これはどこの地区も同じだと思います。参加した人たちは。そういう人たちも対象にしてやるのか。

教育長 最終的には次の審議会で結論を出していただけたらいいわけですが、私は若い方々、先ほど中1の父兄まで上げてもいいのではないかという声もありましたが、やっぱり小学校の子どもたちの学校の授業の様子が分かっているのは小学校のPTAの皆さんですので、この前アンケート取らせてくれた幼保の保護者の皆さんプラス小学校6年生までの保護者、これを中心に考えて、その案も少しということであれば次の審議会で結論を出していただければありがたいと思います。やはり若い人方の意見を大事にしてくださいと一般の方々からたくさんお伺いしていますので、これは思いです。受けとめていただいて次判断していただけるかと思っています。よろしくをお願いします。

伊藤会長 佐藤（浩）委員よろしゅうございましょうか。

佐藤（浩）委員 それはまだ決まっていない、次に対象とか内容が出てくる。それで意見を聞きたいということ。

伊藤会長 それでは次の協議に移ります。②最終答申について、これはまだできません。これは次回ということで割愛させていただきます。

それでは事務局にお返しいたします。よろしくお願いいたします。

教育課長 どうもありがとうございました。それではただいまの協議を踏まえまして、事務局としては1月17、18日あたりの日程でよろしいかどうか確認をお願いします。

伊藤会長 18日（金）ということをお願いします。

教育課長 よろしいでしょうか。それでは次回、年を越して1月18日（金）に設定させていただきます。

後ほど課題となっておりますアンケート関係と質疑に関する事項をまとめたものは事前に間に合えば送らせていただきます。大体15日ころまで届くように事務を進めさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

長い時間協議をしていただきまして本当にありがとうございました。次回は1月18日の開催ということでよろしくお願いいたします。ありがとうございました。